



場面緘黙のある児童の 自己肯定感を高める支援 ーブリーフセラピーと ナラティブ的かわりを通してー

日立市立日高小学校 ことばの教室

鈴木 ゆかり



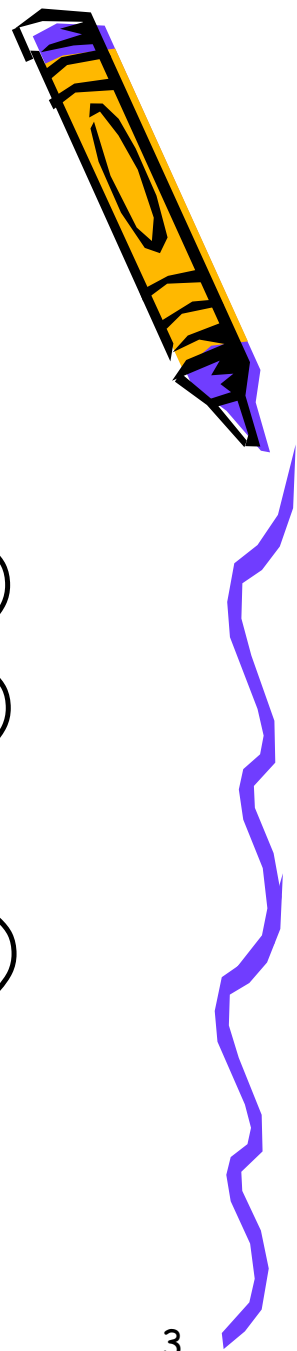
日立市立日高小学校

- ・ 全校児童 521名(23学級)
- ・ 隣に日立金属の日高工場があります。
海と山に挟まれた小さな町です。



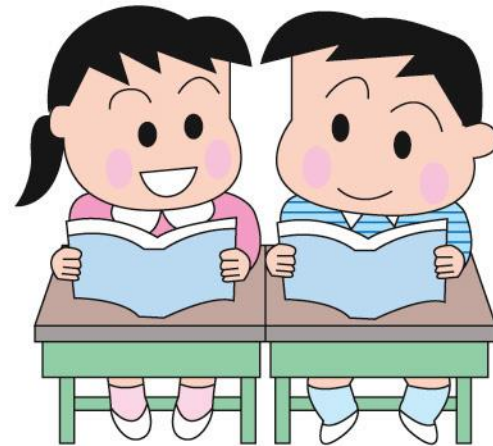
日高小学校の 特別支援学級は・・・

- ・ 言語障害特別支援学級（ことばの教室）
- ・ 知的障害特別支援学級（ゆりのき教室）
- ・ 自閉症・情緒障害特別支援学級
（しいのき教室）



ことばの教室には・・・

話すことや人とのかかわりに苦戦している
子どもたちがいます。



ナラティブとは・・・

- 『語り』のことです。

自分が経験した出来事を話したり，読んだ本や見た映画などについて話したりすることです。

- 通常は，誰かと会話することでナラティブが生まれます。

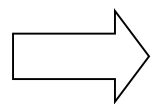
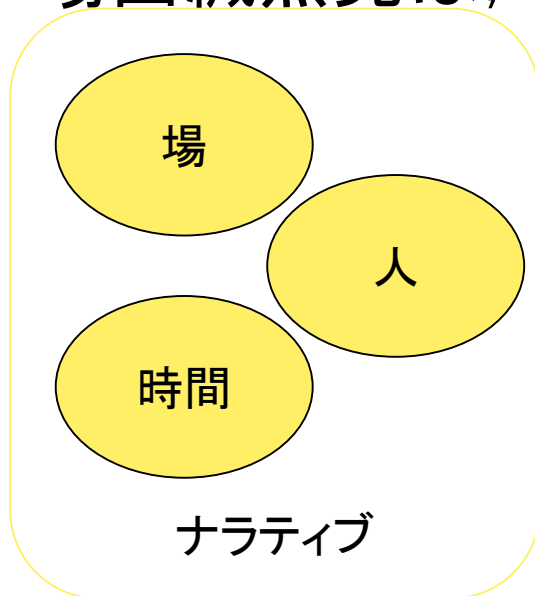


場面緘黙のある児童と ナラティブ支援

(前回の研究より)

場面緘黙児の発現頻度 0.7% (杉山、2009)

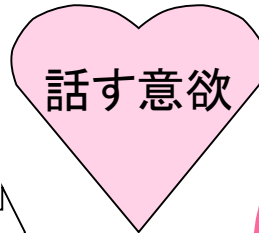
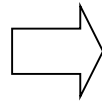
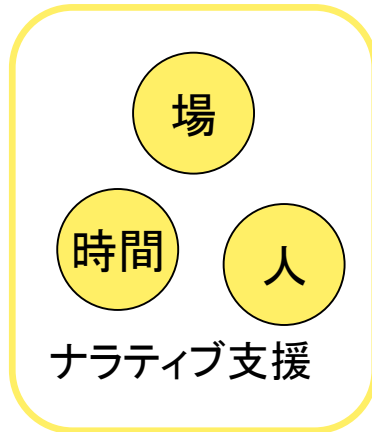
場面緘黙児は、**人前で語る**ことや**人間関係**
で苦戦しているので、



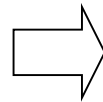
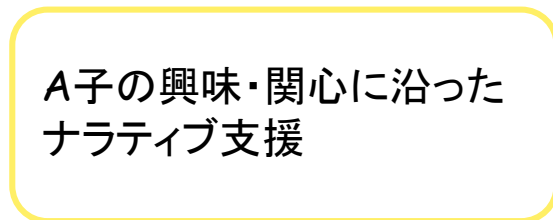
ナラティブの力

自分から話す力

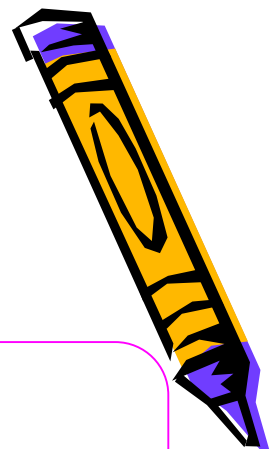
<ナラティブ支援をして>



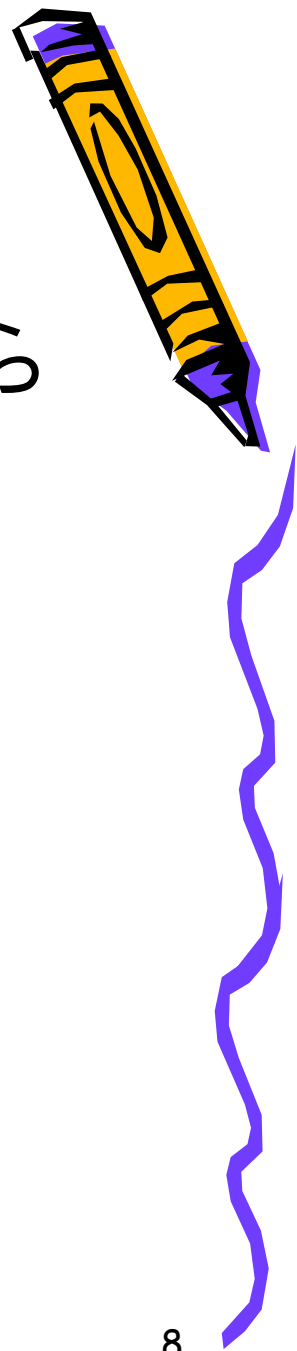
「あのね・・・」
「ねえ・・・」
(柔らかな表情)
(声の抑揚の増加)



「昨日、〇〇見た？」
「〇〇が～だった。」
(予想以上の
表現力・記憶力)



<助言いただいたこと>



○場面緘黙だった当事者の方(成人)から

- ・キーパーソンの存在
- ・興味・関心の高い話題

○ことばの教室の先生から

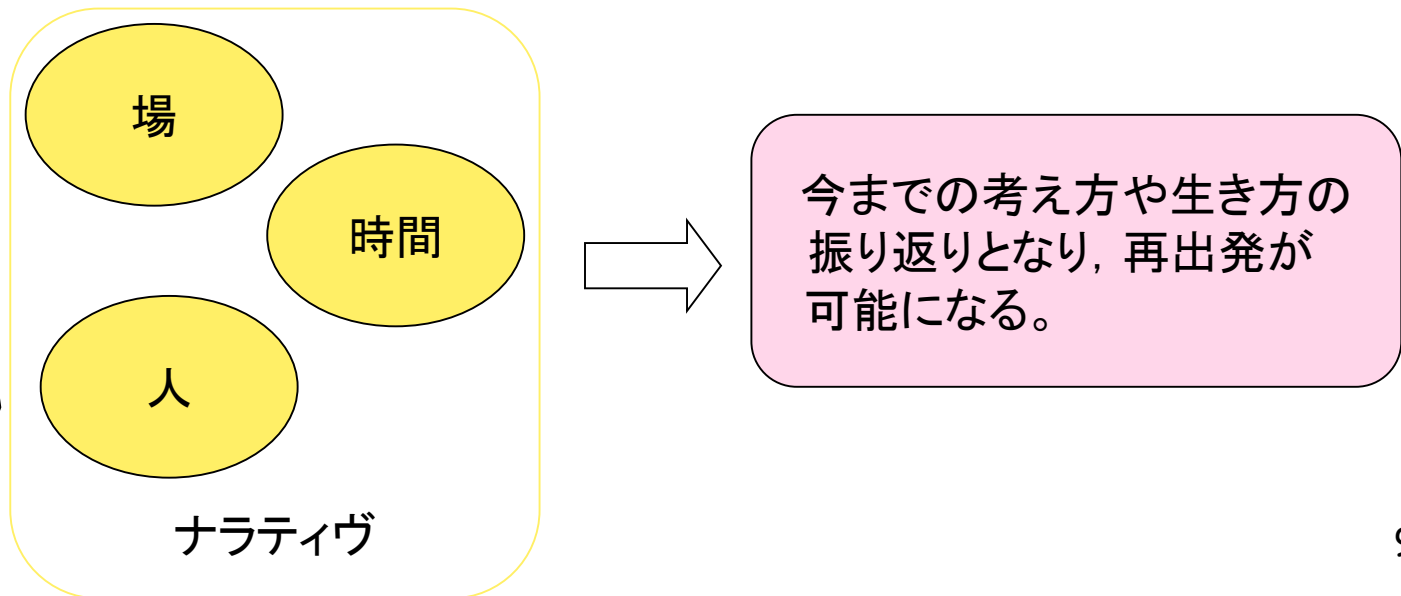
- ・自由会話の効果



人生の物語(やまだ, 2000)

(life story, narrative of life)

私たちは、過去の出来事を変えることはできないが、物語を「語り直す」ことによって、過去の出来事を再構成することが可能になる。



ブリーフセラピー

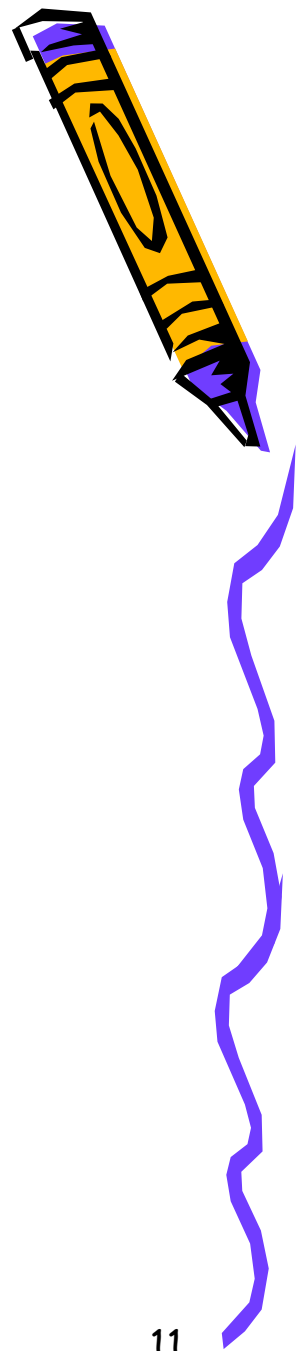
クライアントは、彼らの問題解決のための
リソースを持っている(森、2002)



ブリーフセラピー

(『ブリーフセラピーを生かした
支え合う学級作り』より, 下瀬)

- ・児童のリソース(資質・資源)＝「よさ」
と肯定的経験に気づく
- ・スケーリングで解決の程度を知る
- ・行動レベルの目標を定める



振り返りシートの例



今、印象に残っていること

10段階のスケーリング

その評価点になった理由

具体的な行動目標

◆ 2回目以降の振り返りシート

最高学年としての自分をふり返ろう（帰りの会用）

6年 名前（ ）

1 あなたは、全校のリーダーとして活動したことの中で、どんなことが印象に残っていますか。

() の () こと

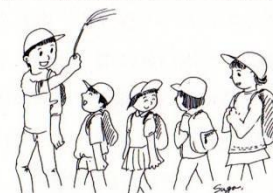
2 リーダーとしての自分を振り返り、点数に直すとどのくらいになりますか。(0～10) ○をつけましょう。

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

前の点と比べて、どうなりましたか。それはなぜですか。

3 今の点数より、1点あげるためには、どんなことをすればよいか具体的に書いてみましょう。

--



個人用にした自己評価カード

今、できていること

10段階のスケール

具体的な行動目標

自分を見つめよう! (5 / 2) ... (*^_^*)

名前

1 見つめよう。

① 今までの自分をふり返って、よくなったなと思うことを書いてみましょう。

<家庭生活の中で>

<学校生活の中で>

<その他>

② よくなったことがいくつもありません。1～10点まで、点数をつけるとしたら何点になるでしょう。

2 考えよう。

① これからの生活の中で、1点だけあげるために、どんなことができるでしょう。考えて書いてみましょう。

対象児A子

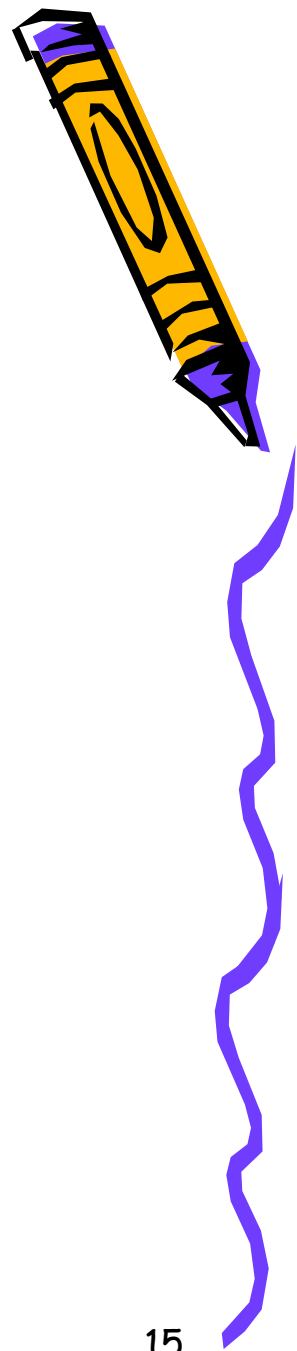


- ・ 通常学級では・・・
無口になることが多い。少数の親しい友達とは話すことができる。
- ・ ことばの教室では・・・
進んで担当者と話をすることができる。



指導期間

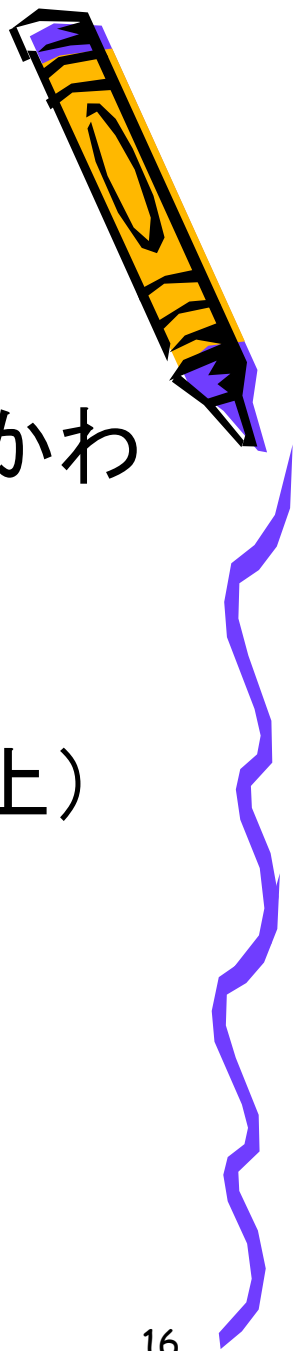
20XX年2月～20X(X+1)年3月
週2時間 計66回



指導目標

友達に自分の意思を伝え、積極的にかかわることができる。

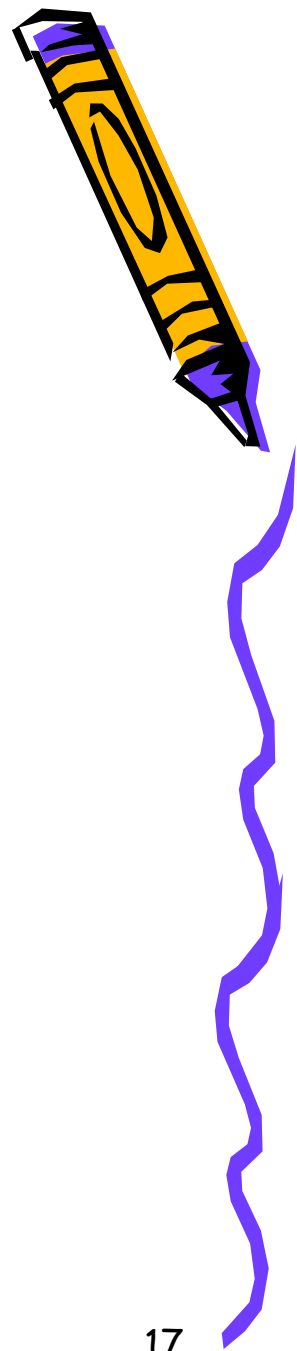
(現在の自分に対して、
10段階のうち自己評価点8点以上)



指導計画と支援方法

＜自由会話におけるやりとりの基本＞

担当者は、A子からの話を**受けとめて共感**する。



指導計画と支援方法

<できていることやよさの言語化>



・解決志向ブリーフセラピー

A子の**ことば**から,

A子のよさ

できていること

をことばにして返す(引き出し, 認める)

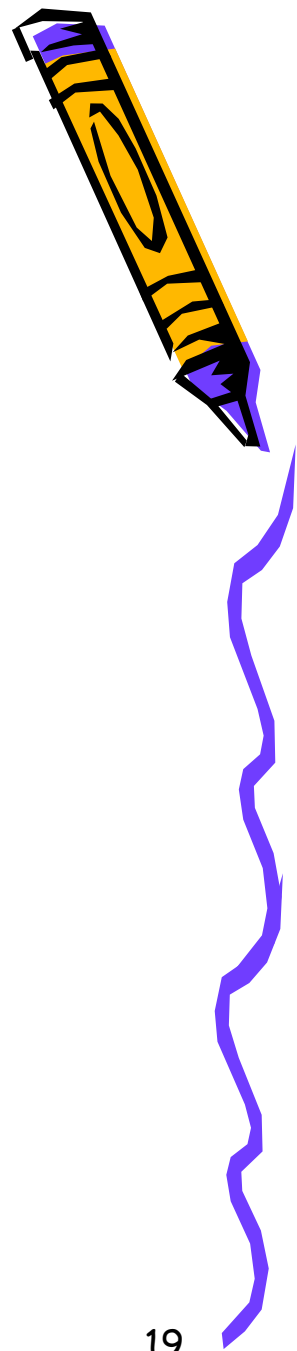
・ナラティブ的にかかわり

次のステップにつながるようにA子の語り
を**前向きな形で語り直して返す**



指導計画と支援方法

<自己評価カードの活用>



自分を見つめよう! (5 / 2)・・・(*^_^*)

名前 ()

1 見つめよう。

① 今までの自分を振り返って、よくなったなあと思うことを書いてみましょう。

<家庭生活の中で>

<学校生活の中で>

<その他>

② よくなったことがいくつもありましたね。1～10点まで、点数をつけるとしたら何点になるでしょう。

2 考えよう。

① これからの生活の中で、1点だけあげるために、どんなことができるでしょう。考えて書いてみましょう。



＜結果 1学期＞



・学級・・・

自分から話すことは少なく、指名されても声
たいへん小さい。

・ことばの教室・・・

困っていることを話してくる。

・『自分を見つめよう』・・・

よくなったことがなかなか書けなかった。



<結果 2学期>



・学級・・・

変化はなかった。

・ことばの教室・・・

さらに、Tと話をするようになる。ことばの教室のグループ学習では、同学年の児童ともよく話した。12月のお楽しみ会では、しっかりとした声で自己紹介ができた。

・『自分を見つめよう』・・・

11月 「何も変わっていない。」と話す。

12月 自己評価が6.5になる。



<結果 3学期>



・学級・・・

体育の授業の班決めで、初めて「入れて。」と自分から言える。教室移動の歩く速さも速くなる。卒業式の返事や呼びかけも大きな声でできた。

・ことばの教室・・・

卒業や中学校生活について、話を進める。

・『自分を見つめよう』・・・

自己評価が8になる。



<考 察 1>



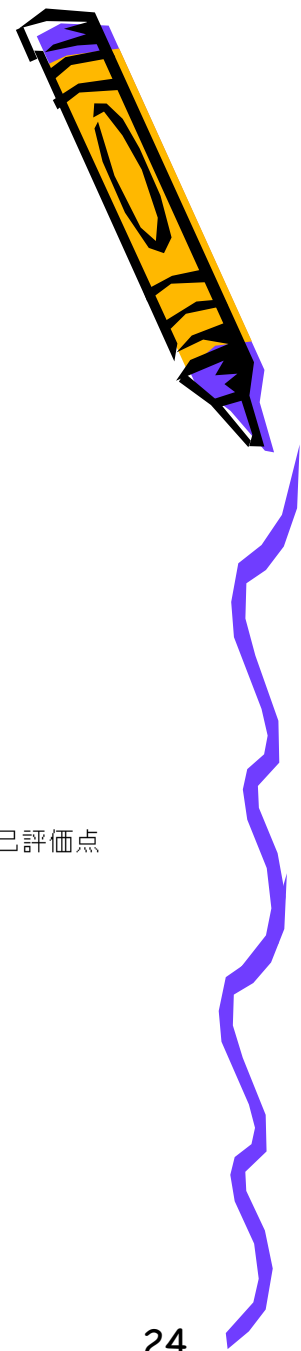
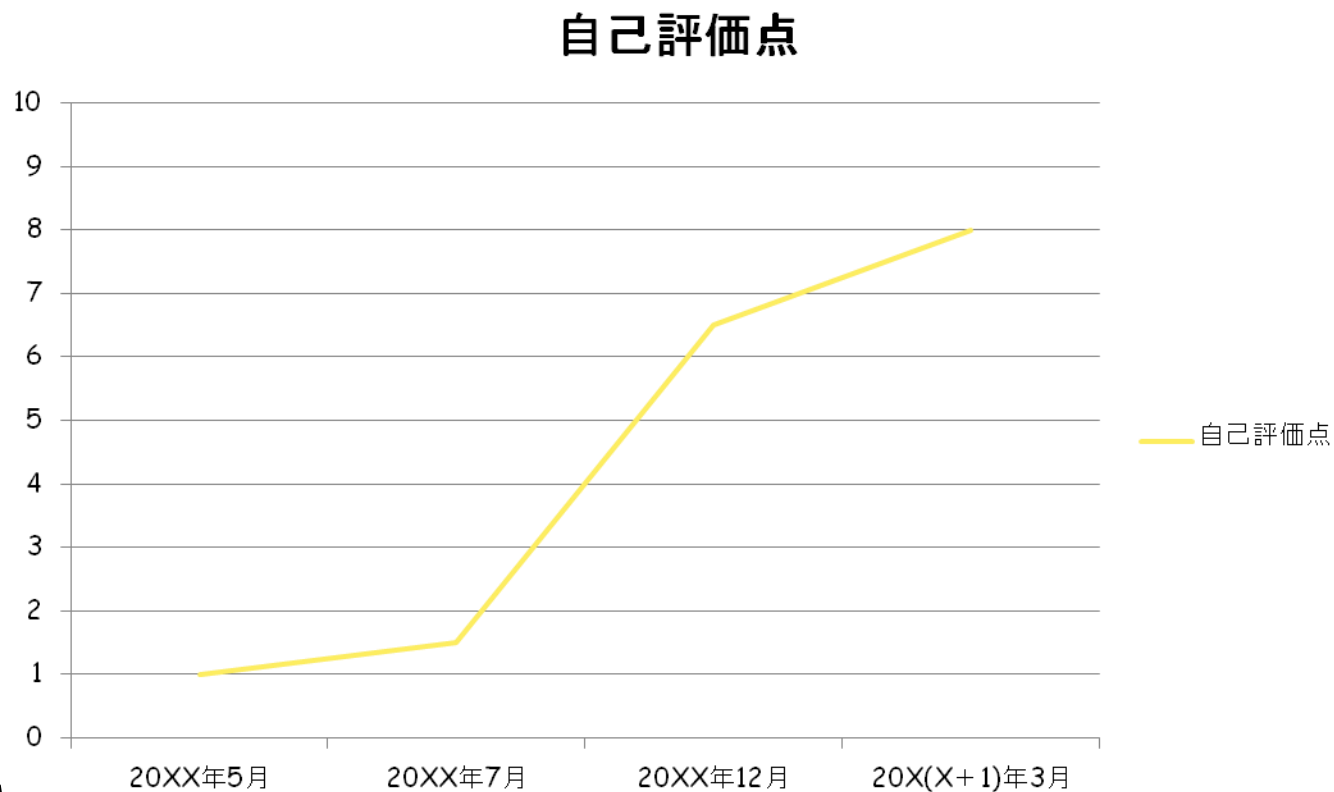
自己評価点を1点上げるためにA子が考えたことの変化

20XX年5月	もう少し早く行動したい。迷うことがあれば、先生に聞く。メモをとる。
20XX年7月	算数会で、足し算と引き算を間違わない。
20XX年12月	できたことを、自分で一つ一つ認めるようにする。
20X(X+1)年3月	卒業式の呼びかけを大きな声ではっきりと言うこと。



<考 察 2>

自己評価点の変化



< 結 論 >

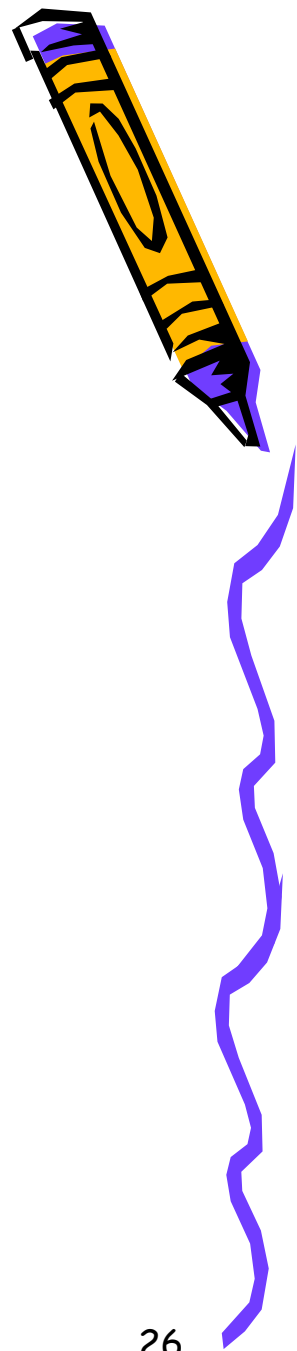


- ・知的に平均で、Tと会話できる場面緘黙のある児童の自己肯定感を高めるために、ブリーフセラピーやナラティブ的かかわりは有効である。
- ・緘黙症状も改善の兆しが見えた。



<課 題>

- ・ 中学校への引き継ぎ
- ・ 今後の学級への広がり

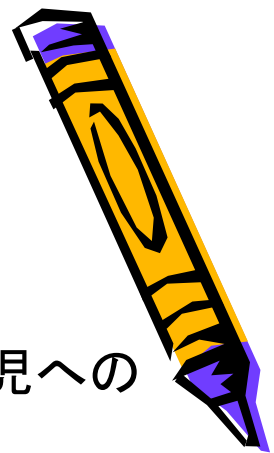


おわりに

その後のA子から・・・

- ・楽しく中学校生活を送っている。
- ・部活動も積極的である。
- ・学級では、新しい友達には、積極的にかわってはいない。



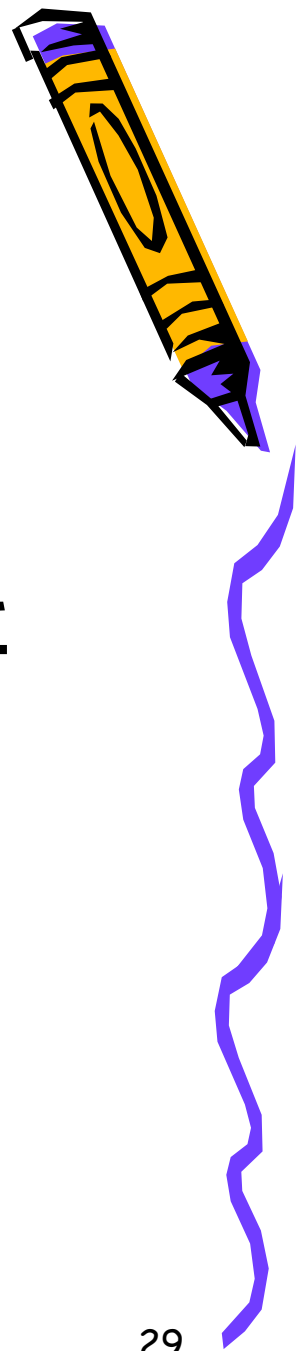


参考文献

- ・Rosemary Sage Alice Suckin 杉山信作.(2009).場面緘黙児へのアプローチー家庭と学校での取り組みー:田研出版.
- ・森俊夫・黒沢幸子.(2002).解決志向ブリーフセラピー:ほんのもり出版.
- ・下瀬昌巳.(2008).ブリーフセラピーを生かした支え合う学級作り:学事出版.
- ・長崎 勤.(2008).発達障害児に対する会話発達アセスメント方法と支援プログラムの開発に関する研究.平成16年～平成19年度科学研究費補助金.(基盤研究(B))研究成果報告書.
- ・やまだようこ.(2000).展望 人生を物語ることの意味 - なぜライフストーリー研究か? -.The Annual Report of Educational in Japan 2000,Vol.39,146-161
- ・園田雅代.(2013).イラスト版子どものアサーション:合同出版.



ご静聴ありがとうございました



もう少し細かくナラティヴをみると ーナラティヴの定義ー



『時間的に系列化され、意味を伝える、現実の出来事もしくは仮想の出来事に関連する、話しことばもしくは書きことば』

(Hughes, McGillivray, & Schmidek, 1997)

ことばによる
経験の**共有**



ナラティブの重要性



- ・ アカデミックスキル(教科成績)との
高い相関(Dickinson&Snow,1987)
- ・ 「心の理論」の発達の源泉
(Bruner&Feldman,1997;Nelson,1993)
- ・ 自己の発達との関連(岩田,2001)と
他者理解

発達障害児だけでなく、
すべての子どもたちにと
って大切なこと

